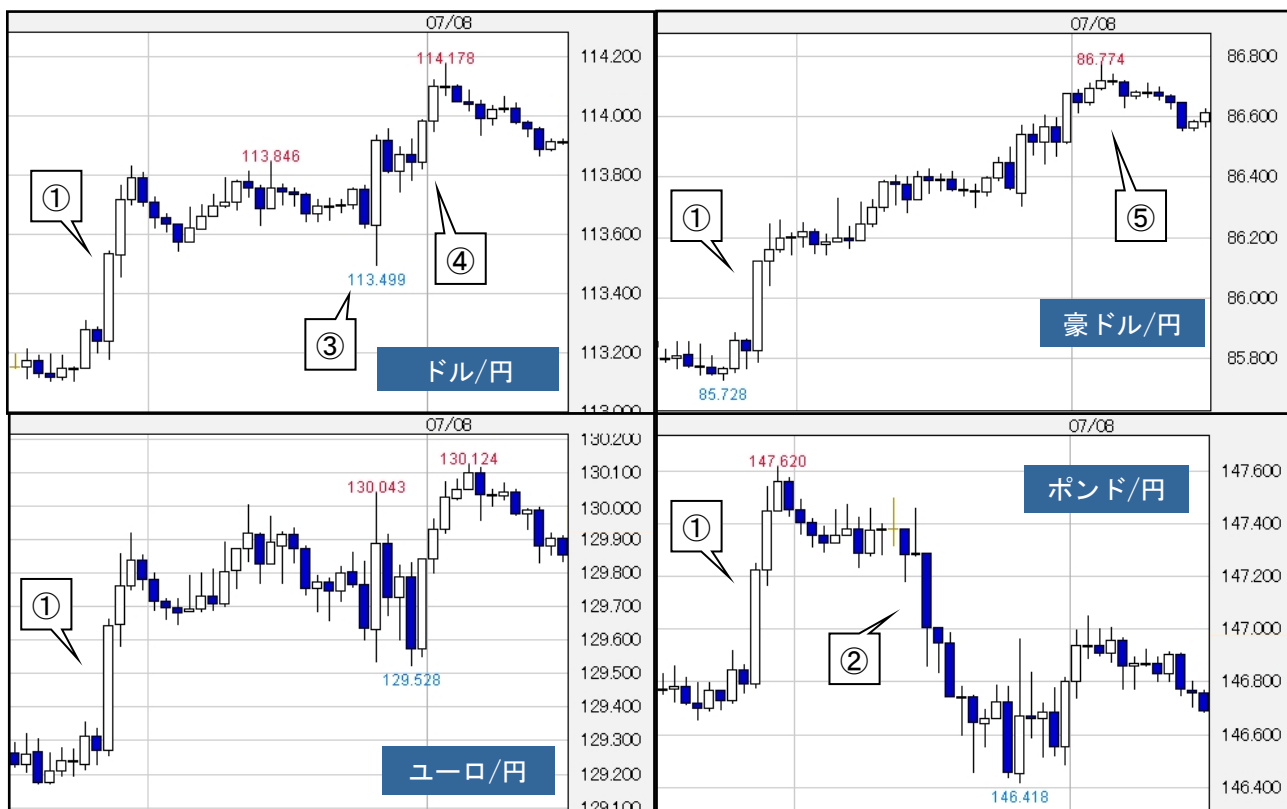


主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

7月10日(月曜日)  
ドル/円・豪ドル/円  
ユーロ/円・ポンド/円

## 日米金利差の拡大基調が継続

### 7日(金)の為替相場



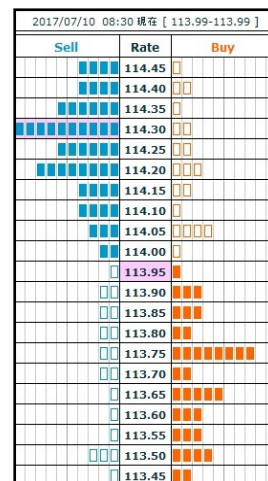
期間：7日(金)午前6時10分～8日(土)午前5時55分 ※チャートは30分足(日本時間表示) 出所：外為どっとコム

- ① 日銀が2月以来となる指値オペ(利回り表示で0.110%で無制限に買い入れ)と国債買い入れ増額(残存5年超10年以下を、前回比で500億円増額)を実施。緩和継続姿勢が示されたことから、日米の金利差拡大観測を背景に円売りが優勢となった。
- ② 英5月鉱工業生産が前月比-0.1%、英5月製造業生産も同-0.2%と予想(+0.4%、+0.5%)外の減少となった。英5月貿易収支が118.63億ポンドの赤字(予想：108.50億ポンドの赤字)となった事も重石となり、ポンド売りが優勢となった。
- ③ 米6月雇用統計は、失業率が4.4%、非農業部門雇用者数は22.2万人増、労働参加率は62.8%、平均時給は前月比+0.2%、前年比+2.5%(事前予想：4.3%、17.8万人増、62.7%、+0.3%、+2.6%)であった。賃金の伸びが予想を下回った事などからドル売りが先行してドル/円は113.50円前後まで下押すも、その後は全般的には概ね堅調との見方を背景に米10年債利回りが上昇する中で買戻しが優勢となった。
- ④ 米連邦準備制度理事会(FRB)は半期金融政策報告書を公表。「最近の金融市場はストレス下でも良好」「債券市場の流動性は潤沢」などが明らかとなった。
- ⑤ ③を背景にNYダウ平均が一時21400ドル台に上昇する中、豪ドル/円は86.70円台まで値を上げた。

7日(金)の株・債券・商品市場

外為注文情報(ドル/円)

日経平均	豪ASX	上海総合	英FT	独DAX
19929.09 (▼64.97)	5703.567 (▼55.196)	3217.957 (△5.513)	7350.92 (△13.64)	12388.68 (△7.43)
NYダウ	日10年債	豪10年債	英10年債	独10年債
21414.34 (△94.30)	0.0870% (▼0.0170)	2.730% (△0.090%)	1.305% (▼0.011)	0.573% (△0.011)
米2年債	米10年債	NY原油	NY金	
1.3990% (△0.0046)	2.3856% (△0.0197)	44.23 (▼1.29)	1209.70 (▼13.60)	



本日の見通し

予想レンジ	ドル/円	ユーロ/円	豪ドル/円	ポンド/円
	113.500-114.700	129.200-130.800	86.100-87.300	146.000-148.000

【ドル/円】

7日のドル/円は、一時約2カ月ぶりに114円台に乗せるなど堅調に推移した。マチマチの内容となった米6月雇用統計の評価を巡り値動きが不安定化する場面もあったが、米国株や米国長期金利の上昇が決め手となり、ドル買い・円売りが優勢となった。

本日は、米雇用統計明けで重要イベントは少ないが、世界的に長期金利が上昇基調にある中で日銀だけが長期金利の上昇を抑制する姿勢を堅持している事もあって、黒田日銀総裁の発言に注目しておきたい。基本的に日米金利差の拡大傾向が続きやすい環境にあるため、ドル/円は堅調を維持する公算が大きい。5月高値114.362円を上抜ければ115円の節目を意識した展開となりそうだ。

執筆者：神田

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示

日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表	市場予想
7/10(月)	09:30頃		(日本) 黒田日銀総裁、あいさつ	—	—
	10:30		(中国) 6月消費者物価指数(前年比)	+1.5%	+1.6%
	10:30		(中国) 6月生産者物価指数(前年比)	+5.5%	+5.5%
	15:00		(独) 5月貿易収支	+181億EUR	+187億EUR
	15:00		(独) 5月経常収支	+151億EUR	+154億EUR
	23:00		(米) 6月労働市場情勢指数(LMCI)	2.3	2.5
	28:00		(米) 5月消費者信用残高	+81.97億USD	+135.00億USD

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。